２０２３年１１月（第９０号）

Design

～ 換 気 を 徹 底 し ま し ょ う ～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例の紹介（第 59 回）

～ ケアマネジャーと共同で支援した一例 ～

患者さんは腰椎圧迫骨折で他病院に入院中でした。ＡＤＬの低下に伴う介護サービスの見直しが必要であるためすぐに退院できず、入院中の病院のソーシャルワーカーより転院の依頼があり、退院調整目的で地域包括ケア病棟”彩り”で受入させて頂きました。

元々は短距離であれば自宅周りを散歩できるくらいのＡＤＬでしたが、今回の圧迫骨折によりＡＤＬが低下し、当院で受け入れした時は、見守りでの歩行器歩行、おむつ交換や更衣介助が必要でした。

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れ後、退院先の検討も含めてご家族、担当ケアマネジャー、院内の関係職（入院主治医、病棟看護師、リハビリセラピスト、ＭＳＷ）でカンファレンスを行いました。話し合いの結果、自宅退院を希望されたため、退院までにご家族に介護指導を受けて頂くことになりました。しかし、介護者であるご家族には元々持病があったため介護指導は順調に進みませんでした。３度目の家族指導の際にケアマネジャーにも同席頂き、改めて退院後の介護方針を相談しました。今回の介護指導で自身の介護力を自覚されたご家族は、他のご家族にも介護指導を受けて頂きご家族間でサポートし合うことや、これまで希望されなかった訪問介護の利用を自ら希望されました。さらに、通院負担が増えることやご家族の介護疲れが溜まった時に対する不安を訴えられたため、訪問診療やショートステイ、”彩り”でのレスパイト入院などについて情報提供を行いました。結果、退院後の介護方針を概ね固めることができ、ご家族からは「こうやってみんなで集まって話すと、いろんなアイデアが出てきて助かる」といった言葉も聞かれました。

この事例では、院内職員が介護指導の進捗状況を評価し、ケアマネジャーを交えてご家族と相談し直すことで、スムーズに自宅への退院をサポートすることができました。退院支援において、地域の皆さまのご協力が不可欠であると改めて感じました。今後も地域の皆様とのスムーズな連携に努めて参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 松田　辰基）

研修会のお知らせ

在宅医療推進をテーマとした研修会を開催する予定です。詳細は追ってご連絡させて頂きます。

日時：令和５年１１月１７日（金）午後２時００分～午後３時００分

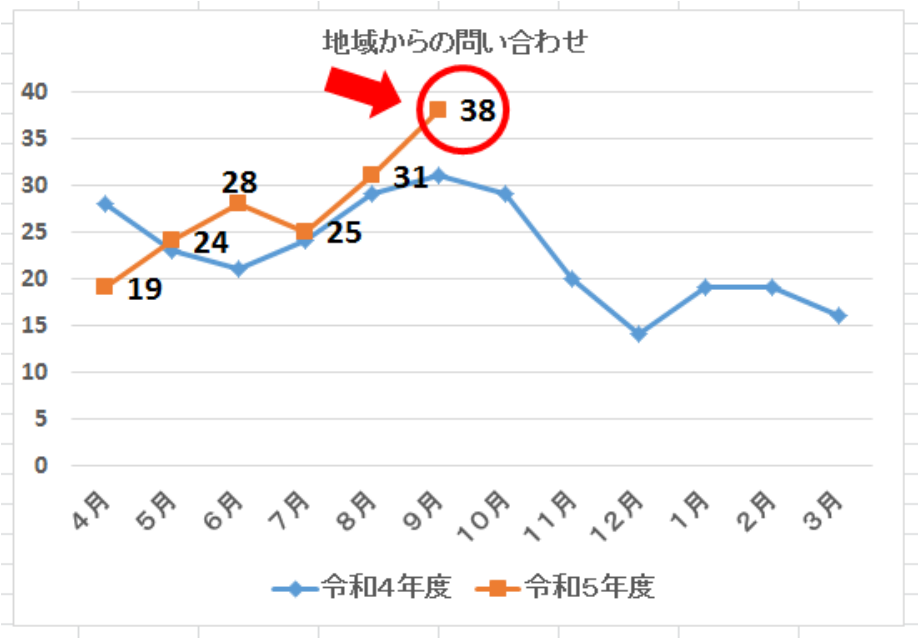
講師：竹澤　健　先生（竹澤内科小児科医院）

開催形式：オンライン

令和５年９月の問い合わせ状況について

～ いつもありがとうございます ～

９月は、過去最高の３８件のお問合せを頂戴しました。ありがとうございます。引き続き迅速にお受入できるよう努めて参りますので、よろしくお願いします。（松田・中嶋）



地域医療連携室より

～ 一丸となって ～

今年は、３月のワールドベースボールクラシックに始まり、陸上、水泳、バスケットボールなどスポーツの世界大会が目白押しです。そして、９月からはラグビーが始まっています。ルールをすべて理解しているわけではないのですが、スクラムになってグイグイと相手を押す様子は、観ているこちらの足にもついつい力が入ってしまいます。そして、選手が一丸となり、パスを回して相手陣地をジリジリ攻めてトライまで持ち込む様子は圧巻で、観ていて気持ちが良いです。

さて、１０月、「丹後半島駅伝大会」（京都府市町村職員厚生会主催）に参加する予定です。メンバーは、地域医療連携室から私を含めて４名、リハビリテーション科から１名、事務１名です。また、交通整備のため、ケアマネジャー１名が同行してくれます。実は、この大会のために、毎週ではないのですが週１回、業務が終わってから皆でランニングをしています。走る速さには個人差がありますが、一人で走っているよりも断然気持ちよく、しかも一人の時よりも速いスピードで走り切ることができます。結果はどうであれ、駅伝大会当日は、ラグビー日本代表のように一丸となり、タスキを繋いでゴールできればと思っています。

お気づきになられている方もおられるかもしれませんが、１０月よりソーシャルワーカーのユニフォームを変更しました。これまで以上に一丸となり、業務に励んでまいりますので、引き続き連携をお願い致します。（地域医療連携室 室長 南出　弦）